

事務所

〒925-0157 志賀町堀松寅32  
TEL/FAX. 0767-32-4368



Instagram



X (旧Twitter)

## 質|疑|レ|ポ|ー|ト|

今年3月4日、県議会定例会で一般質問の機会を得て、令和6年能登半島地震に関係する県の支援策をいただきました。その要約を以下にご紹介します。



### 令和6年第1回定例会 一般質問

#### 災害時における情報発信・伝達

**石田** 能登は65歳以上の高齢化率が5割近い。情報をウェブサイトにアップしても、どれだけの人が入手できているのか不明だ。

**馳知事** 県では発災以降、広報媒体の活用をはじめ、あらゆる手段で住まいに関する情報、ライフラインの復旧見通し、相談窓口に関する情報の発信に努めてきた。紙媒体で直接情報を届けてほしいというニーズに対しては、1次、1.5次、2次の各避難所に相談窓口や支援情報をまとめたチラシを配布した。

**総務部長** 県ホームページの知事記者会見などのアクセス数は、2月末時点で、知事記者会見が20回の開催に対して7万8千件、災害対策本部員会議が40回の開催に対して9万2千件となっている。

#### 建設型応急仮設住宅

**石田** 応急仮設住宅にはプレハブ構造の従来型のほかに、仮設住宅としての使用後に公営住宅に転用できる木造構造の「熊本モデル」「石川モデル」があることが公表されている。しかし、先行して建設が進む従来型に一旦入居すると、「熊本モデル」「石川モデル」に移動できないとされている。移動を認めてもらえないのか。ほか、被災市町からの応急仮設住宅の建設申請受付期限を可能な限り長く設定してほしい。

**土木部長** ご質問の住み替えについて国に問い合わせた。仮設住宅の建設に二重の経費が生じるため認められないとのことだった。また、市町からの応急仮設住宅の建設要望の期限については特に設けていない。しかし、避難生活の長期化を避けるため、夏ごろまでにはおおむね仮設住宅へのご入居をいただきたいと考えている。設計から入居まで2~3カ月程度を要する。できれば梅雨前までにはご相談いただきたい。

#### 能登半島地震復旧・復興推進部

**石田** 県の行政部門の職員のうち、能登6市町の出身者は何人ほどいるのか。新設される能登半島地震復旧・復興推進部には異動を志願する職員を一人でも多く配置すべきだ。

**総務部長** 6市町の出身者は約550人を数える。お尋ねの復旧・復興推進部に配置する職員については、職員の希望業務や勤務地、適性なども踏まえて職員の総合力が最大限発揮されるよう適材適所の人事配置を心がけていきたい。

#### 若者・子育て世代に対する支援

**石田** 被災地地域で地元に残り、生活再建に取り組む若者や子育て世代に対して、拡充した支援を行ってほしい。高齢者などに最大600万円を支給する生活再建支援と比較し、若者、子育て世代には十分でないように感じる。

**馳知事** 半壊以上の住家被害を受けた世帯のうち、世帯収入600万円以下の世帯を対象に、自宅の新築や購入、補修のために借り入れた住宅融資の利子について最大300万円を一括前払いで助成することとした。特に教育費などの支出が多い23歳未満の子を扶養する子育て世帯については、少子化対策や人口流出防止の観点から、収入要件を設けないこととした。

#### 能登中核工業団地

**石田** 被災した進出企業の早期の復旧・再稼働に向けた県の対応を聞く。

**馳知事** 能登中核工業団地には多くの雇用を創出し、石川県経済を支える企業が数多く立地している。早期のなりわい再建に向けて取り組みを進める事業者を後押しする。

#### 能登の創造的復興

**石田** 能登の復旧・復興を力強く推進する覚悟と、能登の新たな魅力を生み出す創造的復興について知事の考えを聞きたい。

**馳知事** 能登各地にある多彩ななりわいを再建し、能登ブランドの高付加価値化を図ることが、心の豊かさや質を求める時代にふさわしい能登の創造につながると考えている。この未来像が実現できるように、私自ら復旧・復興の先頭に立つ。

#### 原子力災害対策

**石田** 国の原子力災害対策指針では、大量の放射性物質が放出される事故が起きた場合、原則として、原子力発電所から5km圏内の住民が先に避難し、5~30km圏内は自宅や避難所などに屋内退避するとしている。しかし、今回の地震では多くの建物被害が発生し、避難ルートとなる国道、県道が寸断された。

**馳知事** 原子力防災は国の責任で実施される。本県の原子力防災計画や避難計画については国の対応を見極めていきたい。



8月25日、官民連携で設置された能登町の活動交流拠点「ノトクロスポート」を視察。同町定住促進協議会の先進的な取り組みを聞きました＝総務企画県民委員会

10月4日、移転新築が検討されている新消防学校の参考とするため、千葉県消防学校を視察しました＝災害・県土強靱化対策特別委員会



1月28日、令和6年能登半島地震の発災後、町立富来病院を馳浩知事が訪れ、私も同行しました【写真提供：石川県】

令和5年度

## 活動フォトレポート

昨年4月に石川県議会の末席に押し上げていただいてから早1年が過ぎました。昨年度は総務企画県民委員会、災害・県土強靱化対策特別委員会に所属する一方、1月1日の大規模震災に遭遇し、県議会議員の役割の大きさと責任の重さを痛切に感じました。地域の皆さんの声を聞き、一日も早い復旧・復興のため、そして地域の魅力を守り高めるため、研鑽をさらに重ねる決意です。



2月6日、立地企業全33社が被災した能登中核工業団地を宮本周司参議院議員や経済産業省職員らと視察し、損壊した生産設備の状況を確認するとともに、必要な支援について要望を聞きました

2月10日、松村祥史防災担当相が避難所となっている富来活性化センターを訪れ、私も同行しました。被災者のさまざまな声を聞きました



2月13日、馳知事が能登中核工業団地の4社を視察。私も同行し、被害状況について説明を受けました



3月12日、震災からの復旧・復興先進地である宮城県を県議団の一員として視察し、今後の参考となる事例や経験を数多く学びました